

## 計器のIoT化ユニット

## 防爆仕様ゾーン0対応

木幡計器

木幡計器製作所（大阪府大正区、木幡厳社長）は17日、石油化学コンビナートなどの防爆エリアに対応したIoT（モノのインターネット）センサーユニット「Saltare X II写真」を開発したと発表した。アナログ計器にセンサーを後付けする製品。遠隔で指針を読み取り、巡回点検を効率化する。化学プラントや車両の塗装ラインなどへの導入を見込み、初年度3000台の販売を目指す。



特に危険度が高いエリア「ゾーン0」に設置可能で、粉じん防爆にも対応する。販売価格は従来品の約3〜4倍を想定する。機器を計器ガラス面に取り付け、読み取ったデータはオンラインで送る。

（自社保有）のシステムやクラウドに送信。大がかりな工事をせずIoT化する。センサー・通信装置を組み込んだ本体ユニットと電池ユニットを分離式にしたため、ユーザー自身で防爆エリア内で電池交換できる。

通信距離が約20〜50メートルのBluetoothス5・1、同約200〜300メートルのLoRaに対応。防爆仕様の筐体に入れた中継器とつなぐことで、事業所全体が防爆エリアの施設でも導入できる。